

世界EV競争の本質 —各国がEV産業を囲い込み

東洋経済新報社編集局報道部記者
横山隼也

- * 2050年宣言がEVの起点
- * 中国EV市場で日系は売れず
- * ハイブリッドが売れる米国
- * EUのガソリン車は30%強に減少
- * 東南アジアがEVの主戦場に
- * BYDのEVは日系とかぶる
- * 電池のコストが重荷
- * ソフト更新で収益を稼げないか
- * EVは上下変動しながら増加する
- * 20年代後半が勝負の時



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は東洋経済新報社編集局報道部の横山記者に来ていただきました。横山さんは今、『週刊東洋経済』『東洋経済オンライン』等々に執筆し、トヨタ、ホンダ、それからその系列サブライヤー、販売店といったところを担当しています。東洋経済の自動車担当の主力記者でございます。

今日は、皆さんにお渡ししている資料を彼がつくっている最中に、トヨタ等の不正問題が起き、そうとう忙しくなっちゃってちょっと苦勞があったんですけども、この資料だけでもEVの今の競争の実態がわかる資料にはなっただけではなくて、記者として活動して、日々自

動車の世界に接している中、EVの最前線何が起こっているのか、彼の生々しいレポートを聞きたいと思ってお呼びした次第です。EVについては会員さんからも前から非常に関心のあるテーマとしてお伺いしておりましたので、ぜひじっくりお聞きいただければと思います。

それでは横山さんお願いいたします。（拍手）

2050年宣言がEVの起点

横山 今ご紹介にあずかりました横山と申します。

今週の頭にいろいろあったので、皆さんそっちにもご関心があるかなと思うんですけども、今回はEVについて話をしてくれということですので、よろしくお願いたします。